

◆(瀏上陽一君) ありがとうございます。

本県の基幹産業である農業の弱体化を食いとめるために、最大限の御支援をいただきますよう、よろしくお願いをいたします。

1つ要望がございます。

それは、あか牛についてであります。

熊本県は、全国一のあか牛の生産地ですが、9年前に黒牛との比率が逆転して以来、両者の差は広がるばかりで、現在は、黒牛6万4,000頭に対し、あか牛は2万2,000頭と、3割を切る数にまで落ち込みました。

その理由としては、黒牛に比べて1頭20万円も安い価格でしか売れない評価の低さと県内外での販売が低迷していることが挙げられます。

こうしたあか牛の市場縮小を食いとめるために、県内外における販売拡大策、とりわけ学校給食への普及による地産地消の推進など、県内消費者に対するあか牛の宣伝に力を入れていただきますようお願いをいたします。

また、昨年熊本県と家畜改良センターにより始められたあか牛の品種改良業務を大いに推進していただくよう、あわせてお願いをいたします。

続きまして、治安対策と交通安全対策についてお尋ねをいたします。

まずは、治安対策についてお伺いいたします。

先月の県警発表によりますと、平成19年の県内の刑法犯総数は、15年ぶりに2万件を下回り、中でも、凶悪犯件数が前年に比べて40%減少し、その検挙率は103%に上ったとのことであり、治安確保に向けた県警の御尽力のたまものと厚く感謝申し上げます。

一方、昨年10月、県警が県下全域で実施された体感治安に関する意識調査の結果を拝見しますと、ここ数年間で熊本県の治安は悪くなったと答えた人が50.9%に上り、よくなったと答えた人の19.8%を大きく上回っております。

実は、山鹿市では、年明け早々に2件の路上強盗事件が発生しましたため、私のところにも、治安確保に関して、駐在所の増設希望を初めとするさまざまな要望が寄せられております。

駐在所に関しましては、現在山鹿市では、山鹿警察署の管轄下で、旧4町に1カ所ずつ、計4カ所の駐在所が置かれておりますが、いずれも受け持つ面積が広いため、山鹿市民に駐在所の数や警察官の人数が少ないと感じさせる背景になっているのではないかと考えます。

現実の犯罪発生件数は減少しているにもかかわらず、県民の体感治安が悪化しているという相反する結果を受けて、今般県警が策定された「安全・安心くまもと」実現計画に基づいて、具体的には今後治安対策をどう推進していかれるのか、警察本部長にお伺いいたします。

〔警察本部長横内泉君登壇〕